



岡山市愛育委員協議会 活動のあゆみ

愛育委員会の歴史

愛育委員会の発祥

恩賜財団母子愛育会は、わが国における乳児死亡率が欧米に比べて著しく高いことや、農山漁村においてそれが特に高く流早産が多いこと等に着目し、町村民の総意による地域づくりの一環として、昭和11年から全国に愛育村を指定し、愛育班員による母子保健活動を進めました。岡山県においても御津郡野谷村（現岡山市）などの4か所が指定愛育村として、33か所が一般愛育村として指定を受け、愛育班活動が行われました。

その後、岡山県の政策として地域組織活動が全県下に広げられ、昭和30年には岡山県愛育委員連合会が誕生しました。

岡山市では、昭和40年に婦人会から独立して岡山市愛育委員研究協議会が結成され、昭和46年に岡山市愛育委員協議会へ改称され現在に至っています。

岡山市愛育委員協議会のあゆみ

岡山市の愛育委員会は、昭和20年代から現支所の地域をはじめとして、昭和38年12月までに34地区に結成され、活動を開始しました。そして、昭和40年3月には岡山市愛育委員研究協議会が結成され、34地区委員会が一つにまとまりました。

昭和45年～46年の周辺町村の合併により61地区になり、研究協議会は、協議会に改められました。その後、地区愛育委員会は、小学校の学校分離に伴い、平成元年4月には、70地区となりました。平成6年4月、岡山市への保健所政令市移行を機に組織の充実と強化を図るため、9支所の21地区を独立させ、かつ1協議会6地域別愛育委員連絡会（地区数91）に体制の再編を行いました。

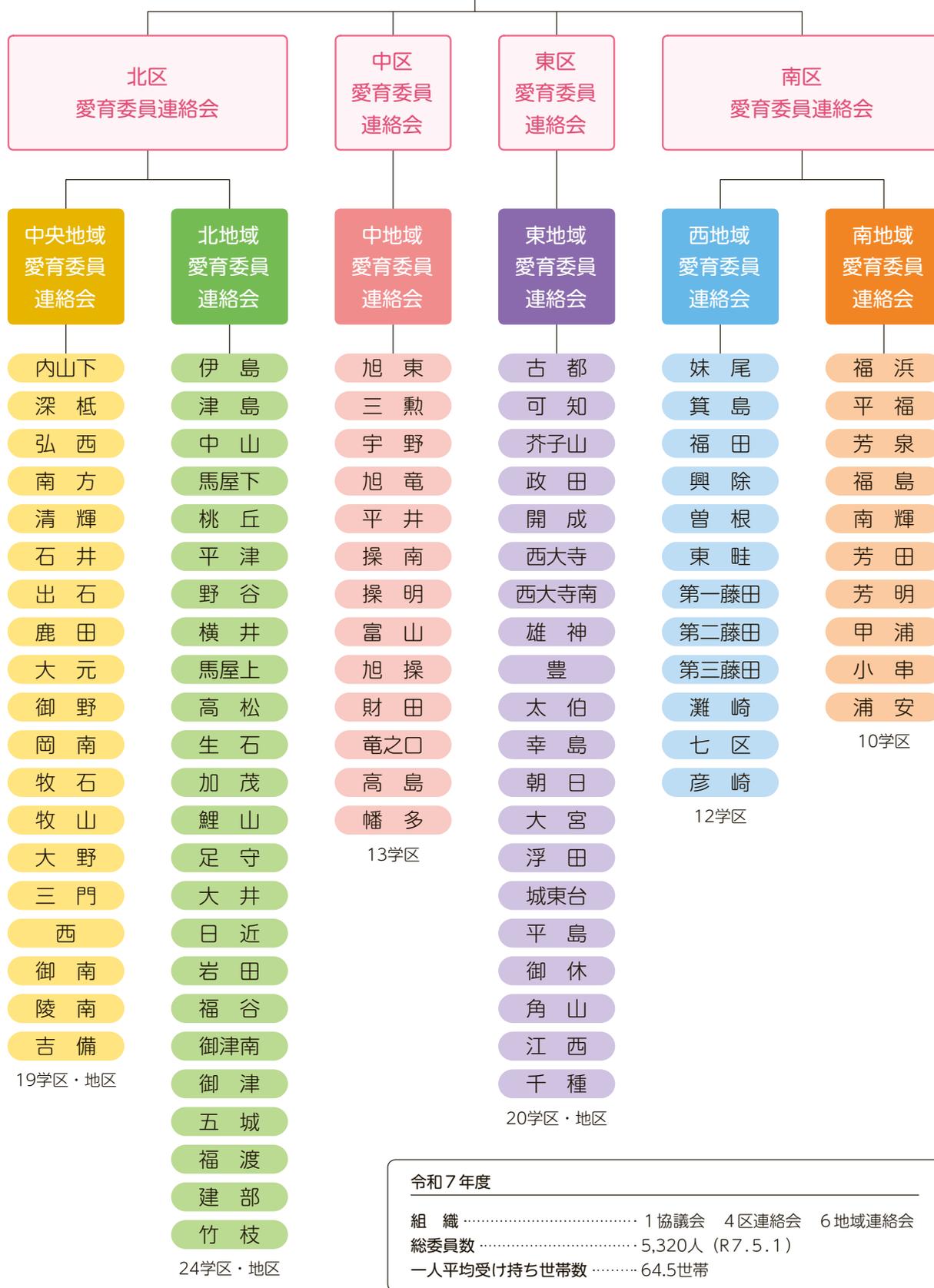
はじめは、乳幼児健診や予防接種のすすめなど、母子保健を中心に活動を行ってきました。その後、寝たきり予防や検診のすすめなどの成人・老人保健事業、献血の推進など、時代のニーズに応じて、健康全般にわたった活動を展開してきました。平成15年には、第3次国民健康づくり対策として打ち出された健康日本21の岡山市版として「健康市民おかやま21」が策定され、それを機に地域の他組織とも連携を持ちながら健康な地域づくり活動をすすめています。

平成17年3月には御津・灘崎両町の合併により、御津支部（6地区）、灘崎支部を設置し、平成19年には建部・瀬戸両町の合併に伴い、建部支部（5地区）、瀬戸支部を設置し、104地区となりました。平成21年4月、岡山市が政令指定都市となったことで区連絡会を設置し、1協議会4区連絡会6地域連絡会の活動体制となりました。

平成22年4月には、岡山県愛育委員連合会より独立し、また御津支部、灘崎支部の廃止に伴い、100学区・地区となり、平成24年4月には、建部支部、瀬戸支部の廃止に伴い、現在98学区・地区、愛育委員数5,320人（令和7年5月現在）で、それぞれの地域別の特色を生かした活動に、自主的に取り組んでいます。

岡山市愛育委員協議会組織図 (令和7年度)

岡山市愛育委員協議会



令和7年度

組 織 1 協議会 4 区連絡会 6 地域連絡会
 総委員数 5,320人 (R7.5.1)
 一人平均受け持ち世帯数 64.5世帯

活動のあゆみ

昭和20年代～30年代

活動の変遷

昭和26年～38年12月までに34地区（合併町村含む）で愛育委員活動を開始する。
昭和34年から育児相談（現：さんさん育児相談）、予防接種等乳幼児に関わる活動に協力する。

社会的背景

昭和25年乳幼児死亡率62.1%、妊婦死亡率19.8%と岡山県では全国平均を大きく上回っていた。

- **育児相談**
（現：さんさん育児相談）に協力
（昭和34年～現在）



育児相談

- **森永ヒ素ミルク事件**
実態調査・検診の協力
ヒ素の混入したミルクを飲んで乳児130人が死亡。被害者は1万2千人余りにのぼり、内臓疾患・知的障害が残っている人もあるといわれています。

愛育委員より
ひとこと  森永乳業と「被害者を守る会」は平成17年9月18日、高野山で全国慰霊祭を開き被害者の冥福を祈り、亡くなった人たちを悼みました。

- **乳幼児健康診査に協力**
（昭和34年～現在）

- **寄生虫卵の検査に協力**
（昭和34年～平成4年）

- **ポリオ、その他の予防接種の勧め**
（昭和36年～現在）



検診風景

- **結核予防住民検診に協力**

保健師より
ひとこと  夜になると保健師 2人で各町内会をまわり、町内会長さん方に集まっていたいただき、愛育委員の組織化をお願いしたところもありました。

昭和40年代～50年代

活動の変遷

昭和40年3月に岡山市愛育委員協議会を結成し、活動を開始する。昭和45年、西大寺16地区が合併加入、昭和46年周辺9地区が合併加入。

母子保健活動中心から、老人保健活動へも活動が広がる。母子クラブ（現：おやこクラブ）への支援を強化する。

社会的背景

岡山市では純潔教育、婚前教育等母性を育てる教育がおこなわれた。

昭和58年老人保健法が施行された。

●母乳運動の推進

母乳運動の先駆者である山内逸郎先生は「産後すぐから母親の初乳を与えると感染症の予防効果がある」とすべて母乳に切换えられ、「母乳は安全で、また、授乳することによって母と子のきずなを深める」と講演して回られました。愛育委員会も「赤ちゃんは母乳で育てましょう」と声をかけ訪問を始めました。

●母子保健三冠王となる

山内先生は低出生体重児を救命すれば死亡率が下がることに着目されて取り組み、昭和52年、53年、54年の3年間、全国母子保健三冠王（乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率が全国最低率）の獲得に貢献されました。愛育委員会も訪問活動の中で山内先生を核に保健師さんと連携をとりながら母乳運動や健診をすすめてきたことの成果だと自負しています。

●母子クラブ（現：おやこクラブ）の育成に協力

育児不安をかかえている若いお母さんへ、先輩としてのアドバイスや託児などの協力をしています。

●成人病（現：生活習慣病）予防への取り組み

（昭和56年～現在）

●がん検診

- 胃がん検診（昭和39年～現在）
- 子宮がん検診（昭和39年～現在）
- 乳がん検診（昭和54年～現在）
- 肺がん検診（昭和58年～現在）
- 大腸がん検診（平成元年～現在）
- 前立腺がん検診（平成15年～平成29年）



乳児健診

保健師より
ひとこと

昭和40年代は岡山市愛育委員協議会が発足し、全市レベルで愛育委員活動の方向性や、活動の充実についての幹部・委員研修を開催して、愛育委員・保健師でこれからの模索していた時代でした。

昭和60年代～平成7年

活動の変遷

成人病（現：生活習慣病）への取り組みを強化する。
平成6年、保健所移管に伴い協議会の組織体制を改正。
6地域での活動が活発になる。

社会的背景

高齢化社会が進行する中、健康づくりへの関心が高まった。

●禁煙運動の推進

みんなの健康、特に母と子の健康を守るために禁煙車両第1号が新幹線に初めて取り付けられたのは昭和51年頃、当時岡山県愛育委員連合会の先輩方の大変なご努力で実現できました。その後、各施設でも禁煙室が設けられるようになりました。

生活習慣病の引き金になる“たばこの害”についての研修や、駅改札口での禁煙ビラの配布活動など、現在も続けています。



禁煙推進の街頭活動

●老人保健法によるけんしん※をすすめる ※がん検診・健康診査

愛育委員より
ひとこと



検診をすすめた人が精密検査となり、結果を待つ時の心配を共有したり、また早期に発見できた人に感謝されたりしました。

●25周年記念事業（平成2年）

25周年記念事業として、65歳以上の在宅寝たきり者を対象に手作りの袋にメッセージとお菓子を入れて訪問しました。本人や介護者の話を聞きながらの訪問は大変喜ばれ、愛育委員活動の食事訪問などのステップとなりました。

保健師より
ひとこと



愛育委員さんによる寝たきりの方への訪問は、高齢化社会が進む中での地域ぐるみの健康づくりについて、多くのことを教えていただきました。

●30周年記念大会

平成7年11月30日三木記念ホールで盛大に行われました。

講演 「こころとからだのリフレッシュ」

講師 武蔵野短期大学 輪島直幸 先生

平成8年～17年

活動の変遷

生活習慣病やがんなどによる死亡が増加していることに加え、結核についても微増しているため、一層の検診受診をすすめる。

平成17年3月、御津町・灘崎町が合併加入。

社会的背景

平成15年「健康日本21」の岡山市版として、『健康市民おかやま21』が策定された。

少子高齢化がますます進む。

●情報誌 *ai*

平成10年度から健康で豊かな生活を目指す情報誌として、「*ai*」の発行が始まりました。住民の方に愛育活動をお知らせすると同時に健康づくりへの関心を高めていただき、また、各世帯に配布することによって多くの住民の方々とふれあう機会を持ちたいという思いからです。年3回発行され、市民の皆様とのつながりを深めています。



情報誌 *ai*

●「わくわく子どもまつり」へ協力

子育てに関する情報発信やこどもたちが積極的に参加する場として、「わくわく子どもまつり」が始まり、愛育委員会もお手玉作りとあそびの体験ブースを設けています。親子のふれあいや世代間交流を図っています。



わくわく子どもまつり

●AMDAへの協力

平成17年にAMDA社会開発機構を通じて、アフリカ南部に位置するザンビア共和国の首都ルサカ市から研修生を受け入れ、地域保健活動の研修に協力しました。

●おかやま国体

平成17年10月22日に行われた「晴れの国おかやま国体・輝いて！おかやま大会」の秋季大会開会式（歓迎演技）に愛育委員会から61名が参加しました。お揃いの衣装を身につけ、「アフリカンダンス」・「明るい未来へ」の2曲を披露しました。



おかやま国体

●40周年記念大会

平成17年10月31日岡山市立市民文化ホールで盛大に行われました。

講演 「未来を拓く愛育活動 ～地域に愛(ai)を～」

講師 旭川荘理事長 江草安彦 先生

平成18年～27年

活動の変遷 [抜粋]

健康寿命の延伸を目的に生活習慣病予防に関する正しい情報の提供や、がん検診・特定健診の受診をすすめる。

社会的背景

平成20年から特定健診が開始。
平成25年「健康日本21(第二次)」の岡山市版として、『健康市民おかやま21(第2次)』が策定された。

●健康市民おかやま21(第2次)の推進

(平成25年～令和5年)

地域の良さを再発見しようと実際に地域を歩き、いろいろな人たちと協力して、ウォーキングマップ「ええとこ発見図」を作成し、健康づくりに活かしています。また、体を動かすきっかけづくりとともに、世代を超えた交流を図るため、「OKAYAMA!市民体操」の普及に取り組んでいます。

これらの活動をとおして、地域の様々な組織や人とのつながりが生まれ、活動の幅が広がっています。



OKAYAMA!市民体操の実施

●精神障害者社会参加普及啓発事業(平成8年～27年)

精神障害への理解を深め偏見をなくすため、正しい知識を深める学習や普及啓発、当事者との交流等に取り組みました。委託事業終了後も精神障害者が住みやすい地域になるよう、当事者との交流やバザーの協力など活動を継続しています。



作業所での交流の様子

●けんしん※の推進 ※がん検診・健康診査

重点目標に、「けんしん」の受診勧奨や生活習慣病予防を掲げ、地域で声かけをしています。平成23年から「けんしんガイド」を配布する等、「けんしん」を受けやすくするため、工夫を凝らして啓発を行っています。平成27年度は、罹患率の高い乳がんについて重点的に活動しました。同年に開催した50周年記念大会においても作成したピンクリボンを来場者全員がつけ、乳がん予防普及啓発の重要性を共有しました。



運動会でけんしんパレード

●東日本大震災復興応援キルトの贈呈

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興を応援する思いを込めて、復興応援キルトを作製しました。平成24年10月5日、完成した7枚のキルトと約70万円の義援金と、メッセージを宮城県多賀城市に届けました。



多賀城市での贈呈の様子

●50周年記念大会(平成27年10月23日)

講師に真生会富山病院の心療内科部長 明橋大二先生をお招きし、「子育てハッピーアドバイス～地域でできること、地域に望むこと～」についてご講演いただきました。こどもをめぐる問題の根本は「自己肯定感の低さ」であり、自己肯定感を育むためのポイントとして「①スキンシップ・話を聞く②ほめる③頑張り認めてねぎらう④ありがとうを言うこと」、こどもや保護者の自己肯定感が高まるよう、地域での継続的な子育て支援をしてほしいとのお話もあり、学びを深めることができました。

平成28年～令和7年の主な活動

この10年間には、大きな災害や新型コロナウイルス感染症の感染拡大などがあり、これまでの活動を工夫し、幅を広げながら取り組んできました。特に愛育委員協議会として力を入れて取り組んだ主な活動を4つにまとめました。

●西日本豪雨災害をはじめとする被災地支援活動

平成30年7月の西日本豪雨では市内各地で水害が発生しました。特に平島学区では、砂川の堤防決壊により、全世帯の3分の2が床上・床下浸水し、甚大な被害を受けました。愛育委員として、被災された方々の健康状況について保健所へ相談を行うとともに、支援を必要とされる方には、関係機関や行政へつなぐ支援を行いました。いつ災害が起きるかわからない時代だからこそ、地域の方の健康の手助けとなる愛育活動を継続し、日頃からの地域のつながりを大切にしていきたいと思えます。

近年各地で多発する災害に対し、愛育委員としてできる支援を考え、義援金を募り復興を応援する思いを込めて被災地に寄付しました。

直近では、令和7年2月に発生した大船渡市山林火災義援金を日本赤十字社岡山県支部岡山市地区本部長である大森市長を通じて被災地に寄付しました。



西日本豪雨の様子（平島学区）



大船渡市山林火災義援金贈呈式

寄付額

平成28年4月	熊本地震	844,337円	令和6年1月	能登半島地震	942,297円
平成30年7月	西日本豪雨	716,325円	令和6年9月	能登半島大雨災害	662,500円
令和元年10月	台風19号	701,345円	令和7年3月	大船渡市山林火災	646,230円

●コロナ下での愛育活動

令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症は愛育活動にも大きく影響を及ぼしました。

令和2年度～令和4年度、緊急事態宣言の発令等により、活動の自粛をせざるを得ない期間が続きました。しかし、活動を絶やしたくないという強い思いを持ち、感染対策をしながら活動を工夫し、研修や訪問等の愛育活動を継続しました。



マスクを着用しての訪問

コロナ下における愛育活動

- マスク着用・消毒、換気、ソーシャルディスタンス等新しい生活様式の周知、徹底
- 定例会や研修会をオンライン・書面開催、複数回に分け少人数で開催
- 配布物・回覧物の分配を屋外で行う 等



密を避けて研修会の開催

●健康市民おかやま21の推進

健康市民おかやま21を推進する中、岡山県は「おかやま健康づくりアワード」を通じて、健康寿命延伸のため、職場や地域で健康づくり活動に積極的に取り組む団体を表彰しており、岡山市愛育委員協議会は令和3年度に受賞し、これまでの活動が高く評価されました。

令和6年度からは健康市民おかやま21（第3次）計画がスタートし、生活習慣病を予防するためベジ・ファースト（野菜から食べよう）をスローガンに、野菜摂取量の増加に向けた取り組みを推進しています。食に関する研修会の開催、地域のイベント等でベジチェック（推定野菜摂取量測定）の実施、おやこクラブに対して食の大切さを伝える活動等、他組織と連携して、野菜摂取を増やす取り組みを展開しています。

これからもより多くの方に健康づくりに関心を持ってもらえるよう、気持ちを強く持ち活動を継続していきます。



地域のイベントでベジチェック



マンマモデルを活用したがん検診の普及啓発

●こんにちは赤ちゃん事業

少子化が急速に進む中で、より一層地域での子育て支援が求められるようになりました。このような社会背景の中、岡山市からの委託を受け、平成20年12月から、研修を受けた愛育委員が、生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を訪問し、子育ての不安や悩みを聞いたり、子育て情報や絵本を届ける「こんにちは赤ちゃん事業」を開始することになりました。

愛育委員活動として「市内のどの地域にお住まいでも、子育てについて相談できる場や親子で遊べる場等の地域の情報を届けられる」という愛育委員の強みを生かし、親子と地域をつなぐ存在を目指してスタートしました。

学習や研修を重ね、訪問の時は丁寧に話を聞いたり、悩んでいるお母さんには保健師さんへつないだり、寄り添った支援を大切にしています。訪問を受けたお母さんからも「悩みを相談することができてよかった」「訪問を心待ちにしていた」等の声が届いています。

また、その後、訪問した赤ちゃんが、元気に成長していく姿を地域で見守っていけることも大きな喜びです。

これまで、多くの赤ちゃんやお母さんとの出会いがあり、令和7年6月には、記念すべき10万人目の訪問を迎えました。

赤ちゃんの笑顔は、岡山市の宝です。これからも身近な地域で赤ちゃんの成長を見守り、子育てを地域全体で支えたいと思います。そして、岡山市で子育てしてよかったと感じていただけるよう引きつづき取り組んでいきます。



絵本についての学習（令和3年度）



コミュニケーションについての研修



10万人目訪問（令和7年6月）

地域に広がる連携の輪

赤ちゃんから高齢者まですべての世代を対象とした健康づくり活動を、多くの地域の皆さまや関係機関と協力しながら進めてきました。この10年間で地域の方々や各組織の連携の輪はさらに広がり、また深まりを見せています。今後も人と人のつながりを大切にし、地域のふれあいの輪・地域の健康の輪を一層広げていきます。

おやこクラブとの交流



一緒に遊んだり、座談会に参加したりしながら、子育てについて情報や思いを共有し、おやこクラブとの交流を続けています。

子育て支援



他の関係団体とともに、毎年「わくわく子どもまつり」に参加しています。子育て世代を対象にブースを設け、お手玉遊びなど昔遊びの伝承に取り組んでいます。

健康市民おかやま21活動



健康市民おかやま21推進団体と連携し、地域のイベントやウォーキング大会などの開催を通して、健康づくりの輪を広げています。近年は、学校や企業など様々な組織や団体とつながりを深め、世代を超えた交流が広がっています。

地域の団体と協力



民生委員や町内会と連携し、地域の敬老会や元気の出る会などの運営をサポートすることで、地域の方々が安心して集い、過ごせる場づくりを支援しています。



協議会重点目標



年度	重点目標
平成25年度～	<p>「母と子及び老後への健康づくり運動をすすめましょう」 ～「健康市民おかやま21（第2次）」を推進していきましょう～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母乳育児をすすめ、子育てを支援しましょう 2 愛育訪問などを通じがん検診・特定健診の受診をすすめましょう 3 生活習慣病予防をすすめ、健康寿命を延ばしましょう 4 みんなの健康を守るため禁煙の輪を広げましょう 5 性教育をすすめるとともにエイズ・性感染症の正しい知識を普及しましょう
平成30年度～	<p>「母と子及び老後への健康づくり運動をすすめましょう」 ～「健康市民おかやま21（第2次）」を推進していきましょう～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母乳育児をすすめ、子育てを支援しましょう 2 愛育訪問などを通じがん検診・特定健診の受診をすすめましょう 3 生活習慣病予防をすすめ、健康寿命を延ばしましょう 4 みんなの健康を守るため禁煙・受動喫煙防止の輪を広げましょう 5 性教育をすすめるとともにエイズ・性感染症の正しい知識を普及しましょう
令和5年度～	<p>「母と子及びすべての世代の健康づくり運動をすすめましょう」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「こんにちは赤ちゃん事業」を通じ、子育てを支援しましょう 2 声かけなどを通じ、がん検診・特定健診の受診をすすめましょう 3 「健康市民おかやま21（第2次）」を推進し、健康寿命を延ばしましょう 4 みんなの健康を守るため禁煙・受動喫煙防止の輪を広げましょう 5 性教育をすすめるとともに性感染症の正しい知識を普及しましょう
令和6年度～	<p>「母と子及びすべての世代の健康づくり運動をすすめましょう」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「こんにちは赤ちゃん事業」を通じ、子育てを支援しましょう 2 声かけなどを通じ、がん検診・特定健診の受診をすすめましょう 3 「健康市民おかやま21（第3次）」を推進し、健康寿命を延ばしましょう 4 みんなの健康を守るため禁煙・受動喫煙防止の輪を広げましょう 5 性教育をすすめるとともに性感染症の正しい知識を普及しましょう